

日時 平成24年12月11日(火) 午後6時30分(開場午後6時)

会場 京都府立文化芸術会館

京都市上京区河原町広小路下ル

☎075・222・1046

主催 京都和文華の会

共催 真如苑

協力 立命館大学アート・リサーチセンター

(社) 京都デザイン協会

NPO法人 京都文化企画室

申し込み方法

11月25日(日)までに往復はがき

による申し込み(入場無料)

※詳細は裏面を参照してください。

伝統音楽の魅力を語る

レクチャーコンサート Vol.18

# 雅楽はおもしろい

不思議な楽器たちが織りなすアンサンブルの妙

出演者 妙音舎

小野 真 (羯鼓)

坂井 潤子 (龍笛)

塩田 隆志 (笙)

新発田 恵司 (笙)

高木 了慧 (楽琵琶・箏)

多治見 真篤 (鉦鼓)

中原 詳人 (龍笛)

林 絹代 (楽箏・笙)

前川 隆哲 (箏)

吉光 信昭 (太鼓)

吉本 乘亮 (箏)

構成・解説

寺内 直子

(神戸大学国際文化学術研究科教授)

司会

南端 玲子



# 雅楽はおもしろい

～不思議な楽器たちが織りなすアンサンブルの妙～

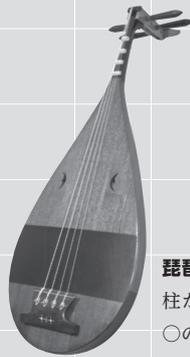
雅楽は、日本の音楽・芸能史の中でもっとも古くから登場する種目の一つで、1300年以上の歴史を持っています。天皇や貴族の行事、神社や寺院の儀礼と結びついて発展してきました。

今日の「雅楽」は、じつは、歴史と内容が異なるいくつかのジャンルを含んでいます。①神道系の儀式でおもに行われる、日本固有の起源を持つと考えられる歌と舞（御神楽、東遊など）、②アジア大陸から伝来した多種類の楽器の合奏音楽、および、その音楽を伴奏に異国風の仮面や豪華な装束を着けて演じられる舞楽（唐楽と高麗楽）、さらに、③9世紀後半頃に生まれた歌もの（催馬楽と朗詠）、が伝承されています。このうち、②の器楽合奏音楽と舞楽などの渡来芸能は、現在、もっとも一般の耳目に触れる機会が多く、狭義の雅楽は、この渡来系の楽舞を指しています。日本の音楽・芸能のほとんどは、歌や語りを少数の楽器で伴奏する「声の芸能」ですが、その中で特に唐楽と高麗楽は、アジア的広がりを持つ多種類の楽器の合奏音楽として異彩を放っています。

このレクチャーコンサートでは、雅楽の全体を概観したのち、特に外来系の唐楽に焦点をあて、それぞれの楽器がどのような個性を持ち、それらが組み合わせられて合奏となると、どんな響きが紡ぎ出されるのか、そして、どんな演奏方法や音楽的特徴があるのかなどをわかりやすく解説していきます。



**箏** 緩やかにカーブした長い共鳴胴の上に絃を一三本張った楽器。柱と呼ばれる可動式のブリッジによって絃の音高を調絃する。右手の親指、食指、中指にはめた爪によって、絃をはじく。現在は、「早しずがき掻」、「閑すかき掻」と呼ばれる決まったパターンを用いる。唐楽の管絃と催馬楽で用いられる。



**琵琶** 四絃。四つのフレット＝柱があり、解放絃を含め、二〇の音高を作ることができる。パチで弾奏する。複数の絃を同時にかけ鳴らすアルペジオの奏法が特徴的。唐楽の管絃と催馬楽で用いられる。



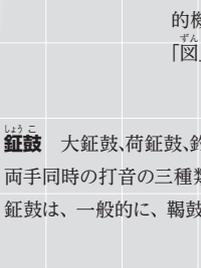
**龍笛** 長さ約四〇センチの竹製の横笛。七孔。一つの音高から別の音高へのなだらかな音の移動が可能。同じ指遣いで、低い「和」の音と、オクターヴ高い「實」の音を作ることができ、この技法をたくみに使い、主旋律を装飾していく。唐楽のほか、久米歌、大歌、倭歌、催馬楽、朗詠などに用いられる。



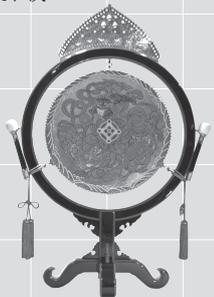
**筆簾** 長さ約一五センチの竹製の縦笛。指孔は前面に七、後面に二つ。葦を平らにした舌（ダブルリード）を差し込む。艶やかで大きな音を出す。塩梅という微妙な音高変化が特徴的。唐楽、高麗楽のほか、詠歌を除く日本固有系の歌謡と催馬楽、朗詠に用いられる。



**笙** 一七本の細い竹を、吹き口がついた匏（頭とも）という器に差し込んだ楽器。一五本の竹の根元に金属製の簧（フリーリード）がついている。呼吸または吸気で簧を振動させ、音を出す。五～六音を同時に鳴らす合竹と呼ばれる和音奏法が特徴的。唐楽のほか、催馬楽、朗詠で用いられる。日本固有系の歌舞や高麗楽には用いない。



**太鼓** 舞楽用の鼙太鼓、移動演奏用の荷太鼓、室内の管絃用の楽太鼓の三種類がある。音楽的機能はいずれも同一で、左手で打つ弱い打音「囀」と右手による強い打音「百」がある。



**鉦鼓** 大鉦鼓、荷鉦鼓、釣鉦鼓の三種類がある。右手もしくは左手の単音、両手同時の打音の三種類を組み合わせた単純なリズムパターンしかない。鉦鼓は、一般的に、羯鼓や太鼓の音にわずかに遅れて打たれる。

(写真：京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター提供)

## 申し込み方法

### ●往復はがきでお申込みください

※応募者多数の場合は、抽選とさせていただきます。  
参加の可否は 11 月末日までに返信はがきにてお知らせします。

締切 **11 月 25 日 (日)** 当日消印有効

問合せ先：京都和文華の会 TEL・FAX 0774-43-7577  
〒 611-0033 宇治市大久保町上ノ山 51-35

郵便往復はがき 611-0033 往信 京都和文華の会宛	宇治市大久保町 上ノ山 51-35	(何も書かないでください)
---------------------------------------	----------------------	---------------

〈表〉

郵便往復はがき 返信 氏名 様	ご本人の住所	1. 住所(郵便番号) 2. 氏名 3. 電話番号 4. 希望人員 (2名様まで)
--------------------------	--------	---

〈裏〉

## アクセス



## 京都府立文化芸術会館

〒602-0858 京都市上京区寺町通広小路下ル東桜町 1  
TEL. 075-222-1046 FAX. 075-211-2013  
<http://www.bungei.jp>

京阪電車「神宮丸太町駅」より徒歩 10 分  
市バスターミナルからは、

- 京都駅 (JR) [A2] のりばより 4、17、205 で約 25 分
- 四条河原町 (阪急) より 3、4、17、205 で約 10 分
- 三条京阪 (京阪) より 37、59 で約 10 分
- 出町柳駅 (京阪) より 3、4、17 で約 5 分

いずれも「府立医大病院前」で下車